



2022年3月期第1四半期決算(累計) プレゼンテーション資料

Creating Value for a Sustainable Future

2021年7月 大阪ガス株式会社



大阪ガスの松井でございます。

本日は、お忙しいところ、当社の2022年3月期第1四半期決算電話会議説明会にご参加いただきありがとうございます。

また平素は、当社事業につきご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

それではただ今より、2022年3月期第1四半期決算について、当社ホームページで開示しておりますプレゼンテーション資料に沿って、説明させていただきます。

4ページをご覧ください。

目次



I. 22.3期第1四半期決算と22.3期見通しの概要

22.3期第1四半期決算のポイント - 4

22.3期見通しのポイント

22.3期第1四半期決算の対前年比較

・ 22.3期見通しの対当初見通し比較 - 7

・ 22.3期見通しの対前年比較

 22.3期第1四半期の成長投資実績 - 9

Ⅲ. 22.3期見通し

・ 22.3期見通しの対前年比較 - 20-24

22.3期セグメント別見通し 25-27

年度見通しに対するリスク要因 28

(参考) 22.3期第1四半期の主なトピックス -29

Ⅱ.22.3期第1四半期決算

 22.3期第1四半期実績の対前年比較 - 11-15

22.3期第1四半期セグメント別実績 - 16-18

インターネットを通じて定期的に経営情報を発信しています:下記のURLで、決算短信、アニュアルレポート、説明会資料等を閲覧・ダウンロードすることが可能で

す。https://www.osakagas.co.jp/company/ir/ 「見通し」に関する注意事項 :このプレゼンテーションには、将来の業績に関する見通し、計画、戦略などが含まれており、これらは現在入手可能な情報から得られた 当社グループの判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績の見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実 際の業績に影響を与えうる重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場・原油価格の変動並びに天候の異変等があります。

ガス販売量に関する注記 :全て、基準熱量を45MJ/m³として、表記しています。 連結ガス販売量に関する注記 :名張近鉄ガス・豊岡エネルギー・新宮ガスは12月決算です。



I. 22.3期第1四半期決算と22.3期見通しの概要







ブリーポートLNGプロジェクトやサビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益や、新型コロナ影響の緩和による情報ソリューション事業やフィットネス事業等のライフ&ビジネスソリューション事業の増益により連結経常利益は前年比31.4%(100億円)増益の421億円

| 億 | Ħ | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|-----|-------------------------|------------------|------------------|------|---------|--|
| 売上高 | | 3,143 | 3,172 | -29 | -0.9% | |
| 経 | 常利益 | 421 | 320 | +100 | +31.4% | 海外エネルギー事業(フリーポート、サビン)やLBS*2事業(情報、フィットネス) の増益等 |
| | タイムラグ差損益 (ガス・電 カ) *1 | -110 | 4 | -115 | - | 前年差 (-115) の内訳 ガス-80、電力 -35 |
| | タイムラグ差損益控除後 経常利益 | 532 | 316 | +216 | +68.4% | |
| | 会社株主に帰属する 期純利益 | 315 | 216 | +98 | +45.8% | |

^{*1} 国内エネルギーの内数

^{*2} ライフ&ビジネスソリューション

| | | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | 備老 |
|------|--------|------------------|------------------|-------|--------------------|
| 原油価格 | \$/bbl | 66.9 | 32.2 | +34.7 | 22.3期実績は6月速報値までの平均 |
| 為替 | 円/\$ | 109.5 | 107.6 | +1.9 | |

4

4ページに、2022年3月期第1四半期決算のポイントをまとめています。

当期の売上高は、フリーポートLNGプロジェクトや米国上流事業などにおける海外エネルギー事業が増収であったものの、国内エネルギー事業で原料費調整制度に基づきガス販売単価が低めに推移したことなどにより、前年同期に比べて若干減収の3,143億円になりました。

一方、当期の連結経常利益は、海外エネルギー事業の増益等により31.4%増の421億円となりました。増益の要因については後ほどご説明します。





- 原油価格上昇など業績予想の前提となる事業環境に変化が生じたため、業績予想の修正を行う。
- 売上高は、原油価格上昇に伴うガス事業及び電力事業における販売単価上昇等を見込み、当初見通しから 1,050億円増収の1兆5,100億円
- ✓ 経常利益は、国内エネルギー事業のタイムラグ影響等はあるが、原油価格上昇・米国金利上昇等による海外エネルギー事業の増益もあり、当初見通しを据え置き、950億円

| 億 | 円 | A. 22.3期 見通し | B. 22.3期 当初見通し | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|---|-------------------------|-----------------|-------------------|-------|---------|-----------------------------------|
| 壳 | 上高 | 15,100 | 14,050 | 1,050 | +7.5% | 販売単価の上昇等 |
| 絽 | 常利益 | 950 | 950 | ±0 | - | |
| | タイムラグ差損益 (ガス・電 カ) *1 | -299 | -119 | -179 | - | 当初見通U差 (-179) の内訳 ガス-139、電力-39 |
| | タイムラグ差損益控除後 経常利益 | 1,249 | 1,069 | +179 | +16.8% | 海外エネルギー事業における増益 |
| | 会社株主に帰属する 期純利益 | 705 | 705 | ±0 | - | |

^{*1} 国内エネルギーの内数

| | | A. 22.3期 見通し | B. 22.3期 当初見通し | А-В | 備老 |
|------|--------|-----------------|-------------------|-------|-------------------------|
| 原油価格 | \$/bbl | 73.0 | 60.0 | +13.0 | 2Q以降の前提:原油価格 75.0\$/bbl |
| 為替 | 円/\$ | 109.9 | 105.0 | +4.9 | 2Q以降の前提: 為替 110.0円/\$ |

5

5ページに、2022年3月期見通しのポイントをまとめています。

足元の原油価格上昇など事業環境の変化をふまえ、見通しの前提を見直しました。 原油価格は、第2四半期以降の前提を60\$/bblから75\$/bblへ変更し、為替は第2四半期以降の前提を105円/\$から110円/\$へ変更しています。

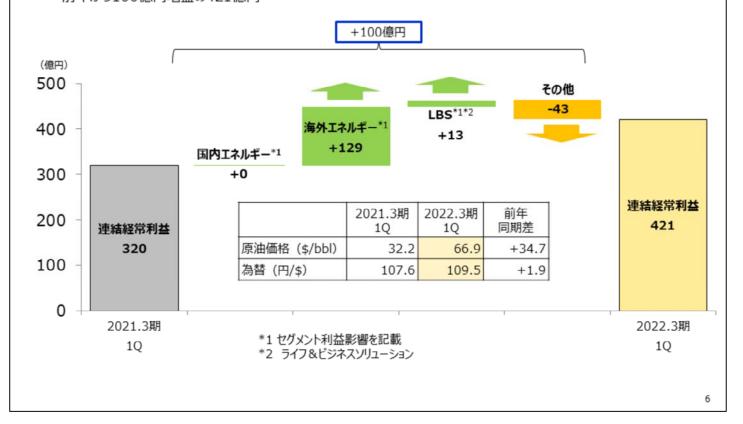
その結果、売上高は、原油価格の上昇に伴うガス・電力の販売単価上昇等を見込み、当初見通しより1,050億円増収の1兆5,100億円としています。

経常利益は、国内エネルギー事業のタイムラグ影響による減益があるものの、海外エネルギー事業の増益も見込まれるため、当初見通しのまま変更していません。

22.3期第1四半期決算の対前年比較(経常利益)



フリーポートLNGプロジェクトやサビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献による海外エネルギー事業の増益や、新型コロナ影響の緩和による情報ソリューション事業やフィットネス事業等のライフ&ビジネスソリューション事業の増益により前年から100億円増益の421億円



6ページに、当第1四半期の連結経常利益について、前年同期との比較をまとめています。

連結経営利益は、前年の320億円から100億円増益の421億円となりました。

主な増益要因は海外エネルギー事業で、フリーポートLNGプロジェクトやサビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献により129億円の増益となりました。

また、ライフ&ビジネスソリューション事業では、情報ソリューション事業やフィットネス事業における新型コロナ影響の緩和などにより13億円の増益となりました。

国内エネルギー事業では、タイムラグにより115億円の減益影響があったものの、一時的な増益要因などもあり、前年並みのセグメント利益となりました。

22.3期見通しの対当初見通し比較(経常利益)



第2四半期以降の原油価格・為替等の前提を変更し、国内エネルギー事業におけるタイムラグ影響の拡大を見込むが、海外エネルギー事業などの増益影響を織り込み、2022年3月期連結経常利益は、当初見通しのまま据え置く



7ページは、今回修正した通期見通しの当初見通しとの比較になります。

連結経常利益 950億円は変更ありませんが、内訳として国内エネルギー事業が90億円の減益に、海外エネルギー事業が90億円の増益になる見通しです。

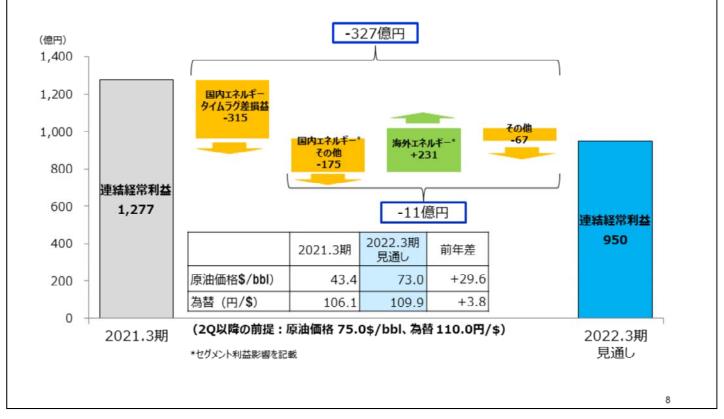
国内エネルギー事業では、原油価格前提を引き上げたこと等によるタイムラグ差損の拡大による減益等を反映しました。

一方で海外エネルギー事業は、米国の金利上昇によるフリーポートLNGプロジェクトの増益や、原油価格上昇に伴う海外上流事業の増益等を反映しております。

22.3期見通しの対前年比較(経常利益)



22.3期の連結経常利益の見通しは、海外エネルギー事業は増益となるものの国内エネルギーのタイムラグ影響が大きく、前年から327億円減益の950億円



8ページは、2022年3月期連結経常利益見通しと前年実績との比較になります。

前年の連結経常利益は1,277億円でしたが、当期は327億円減益の950億円となる見通しです。

減益要因としてはタイムラグが大きく、315億円の減益影響と見ています。

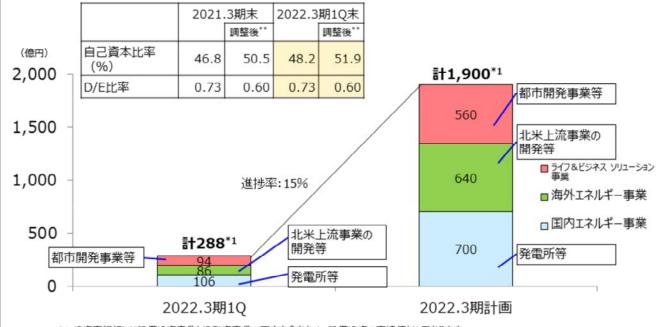
また国内エネルギー事業においても、前年の国内外の冬場の低気温影響の反動により175億円の減益となる見通しです。

一方、海外エネルギー事業では、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献拡大や、原油価格上昇による豪州上流事業の増益などにより231億円の増益を見込んでいます。





- 2022年3月期第1四半期は、国内エネルギー事業における発電所、海外エネルギー事業における北米上流事業の 開発等に288億円の成長投資を実行
- ✓ 自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持



*1 投資実行額には設備投資案件と投融資案件の両方を含むため、設備投資の実績値とは異なります

*2 発行済ハイブリッド社債1,750億円の資本性50%を調整(19年12月:1,000億円、20年9月:750億円)

9

9ページは成長投資になります。

当第1四半期は、国内エネルギー事業における発電所、海外エネルギー事業における北 米上流事業の開発等に288億円の成長投資を行いました。

2021年6月末時点の財務健全性指標としては、自己資本比率が48.2%、D/E比率が0.73となり、目標である自己資本比率50%程度、D/E比率0.7程度を維持しています。

今後も財務健全性とのバランスを確保しながら、企業成長に向けた投資を進めていきます。

10ページから18ページは当四半期決算の詳細について、また19ページからは当期見通し詳細について記載しております。

以上で、当四半期決算と通期見通しの概要のご説明を終わらせていただきます。



Ⅱ. 22.3期第1四半期決算





22.3期第1四半期実績の対前年比較- ①売上高、利益等

| 億円 | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|------------------------------------|------------------|------------------|-------|---------|--|
| 売上高 | 3,143 | 3,172 | -29 | -0.9% | |
| 営業利益 | 375 | 252 | +122 | +48.4% | |
| 経常利益 | 421 | 320 | +100 | +31.4% | 海外エネルギー事業(フリーポート、サビン)やLBS*3事業(情報、フィットネス) の増益等 |
| タイムラグ差損益 (ガス・電 カ)* ¹ | -110 | 4 | -115 | - | |
| タイムラグ差損益控除後 経常利益 | 532 | 316 | +216 | +68.4% | |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 315 | 216 | +98 | +45.8% | |
| 一株あたり当期純利益(円) | 75.8 | 52.0 | +23.8 | +45.8% | |
| EBITDA*2 | 670 | 527 | +143 | +27.1% | |

| | | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | 備考 |
|------|--------|------------------|------------------|-------|--------------------|
| 原油価格 | \$/bbl | 66.9 | 32.2 | +34.7 | 22.3期実績は6月速報値までの平均 |
| 為替 | 円/\$ | 109.5 | 107.6 | +1.9 | |

^{*1} 国内ェネルギーの内数 *2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費(のれん償却費含む) + 持分法投資損益 *3 ライフ&ビジネスソリューション





| 億円 | A. 22.3期 1Q末実績 | B. 21.3期 末実績 | 21.3期1Q 末実績 | А-В | 備考 |
|-------------|-------------------|-----------------|----------------|--------|----------|
| 総資産 | 23,466 | 23,133 | 21,868 | +332 | 成長投資の進捗等 |
| 自己資本 | 11,302 | 10,818 | 9,888 | +484 | |
| 一株当たり純資産(円) | 2,718.6 | 2,602.2 | 2,378.3 | +116.5 | |
| 有利子負債 | 8,234 | 7,853 | 8,419 | +380 | 社債発行等 |
| ハイブリッド社債 | 1,750 | 1,750 | 1,000 | ±0 | |

| | A. 22.3期 1Q末実績 | 21.3期 末実績 | B. 21.3期 1Q末実績 | A-B | 備考 |
|------|-------------------|--------------|-------------------|-------|----|
| ROIC | 1.8% | 6.2% | - | 2 | |
| ROE | 2.8% | 7.8% | 2.2% | +0.7% | |

| | A. 22.3期 1Q末実績 | B. 21.3期 末実績 | 21.3期1Q 末実績 | A-B | 備考 |
|--------------|-------------------|-----------------|----------------|-------|----|
| 自己資本比率 | 48.2% | 46.8% | 45.2% | +1.4% | |
| ハイブリッド社債考慮後* | 51.9% | 50.5% | 47.5% | +1.3% | |
| D/E比率 | 0.73 | 0.73 | 0.85 | +0.00 | |
| ハイブリッド社債考慮後* | 0.60 | 0.60 | 0.76 | +0.01 | |

^{*}発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整



22.3期第1四半期実績の対前年比較- ③投資等

| 億円 | | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | 備考 |
|-----|---------------------|------------------|------------------|------|------------|
| 品質向 | 向上投資 | 108 | 102 | +6 | |
| 成長技 | 设資 | 288 | 260 | +28 | |
| | 国内エネルギー | 106 | 106 | +0 | 発電所等 |
| | 海外エネルギー | 86 | 90 | -3 | 北米上流事業の開発等 |
| | ライフ&ビジネスソリュー ション | 94 | 63 | +31 | 都市開発事業等 |
| 設備指 | 设資 | 352 | 288 | +64 | |
| 減価値 | 賞却費 | 257 | 234 | +22 | |
| フリー | キャッシュフロー*1 | -351 | -195 | -156 | _ |

^{*1} フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー



22.3期第1四半期実績の対前年比較-④お客さまアカウント数等

| | A. 22.3期 1Q末実績 | B. 21.3期 末実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|----------------|-------------------|-----------------|-----|---------|----|
| お客さまアカウント数(千件) | 9,497 | 9,401 | +96 | +1.0% | |

| | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|--|------------------|------------------|------|---------|----------------|
| 連結ガス販売量(百万m³) | 1,653 | 1,601 | +51 | +3.2% | |
| (個別)ガス販売量 | 1,641 | 1,588 | +52 | +3.3% | |
| 家庭用 | 427 | 467 | -40 | -8.7% | 高気水温影響、調定件数の減少 |
| ー 戸あた りガス販売量 (m ^{3/} 月) | 29.6 | 31.3 | -1.7 | -5.3% | |
| 業務用等 | 1,214 | 1,121 | +93 | +8.3% | 設備稼働増 |
| 国内電力販売量(百万kWh)* | 3,505 | 3,285 | +221 | +6.7% | |
| 小売 | 1,140 | 1,121 | +19 | +1.7% | |
| 卸等 | 2,365 | 2,164 | +201 | +9.3% | |
| (個別)ガス供給件数(千件) | 4,972 | 5,153 | -181 | -3.5% | |
| 低圧電気供給件数(千件) | 1,544 | 1,375 | +168 | +12.2% | |

^{*1 22}年3月期より電力販売量は、電力販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上することから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載。前年の電力販売量は、毎月の検針による使用量の計量に基づいたものを記載。

| | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | А-В | 備考 |
|---------|------------------|------------------|-----|----|
| 平均気温(℃) | 19.8 | 19.8 | ±0 | |



22.3期第1四半期実績の対前年比較-⑤セグメント別

| 億円 | A. 22.3期 1Q実績 | B. 21.3期 1Q実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|-----------------------------|------------------|------------------|------|---------|--------------------------|
| 売上高*1 | 3,143 | 3,172 | -29 | -0.9% | |
| 国内エネルギー | 2,566 | 2,691 | -124 | -4.6% | 原料費調整制度に基づくガス販売単価 低下等 |
| 海外エネルギー | 176 | 88 | +87 | +98.1% | フリーボート、サビンの増収等 |
| ライフ&ビジネスソリューション | 516 | 497 | +18 | +3.7% | |
| 調整 | -115 | -105 | -10 | - | |
| セグメント利益*1*2 | 413 | 292 | +120 | +41.1% | |
| 国内エネルギー | 239 | 238 | +0 | +0.3% | |
| 内、電力*3 | 28 | 37 | -8 | -24.1% | |
| 海外エネルギー | 125 | -3 | +129 | - | フリーポート、サビンの利益貢献等 |
| ライフ&ビジネスソリューション | 44 | 31 | +13 | +43.1% | コロナ影響の緩和 |
| 調整 | 3 | 26 | -23 | - | |
| タイムラグ差損益(ガス・電力)*4 | -110 | 4 | -115 | - | |
| ヘッジ会計適用外の デリバティブ時価評価影響*5 | 21 | -40 | +61 | - | |

^{*1 22.3}期より、国内エネルギー・ガスと国内エネルギー・電力を国内エネルギーへ統合し、大阪ガスインターナショナルトランスポート㈱等を海外エネルギーから 国内エネルギーに移管。併せて、大阪ガス㈱(国内エネルギー・ガス)に含まれる海外エネルギーのための営業費用を海外エネルギーに移管。 21.3期実績は新セグメントベースでの試算値

^{*2} セグメント利益=営業損益+持分法投資損益

^{*3「}電力」は、大阪ガス個別附帯電力利益と一部の関係会社の利益を単純合算したものであり、従来の「国内エネルギー・電力」とは異なる。 *4 国内エネルギーの内数

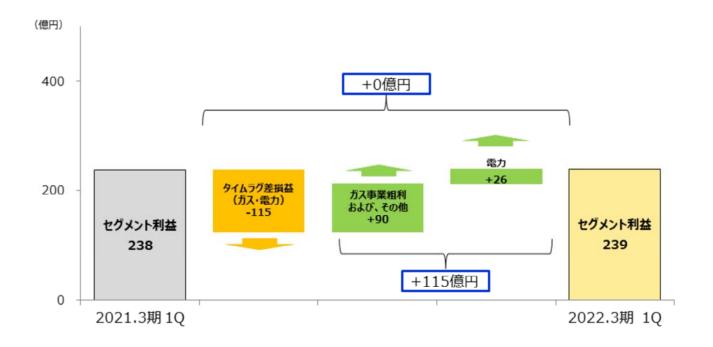
^{*5} 海外エネルギーの内数

22.3期第1四半期セグメント別実績 - 国内エネルギー(ガス+電力)



16

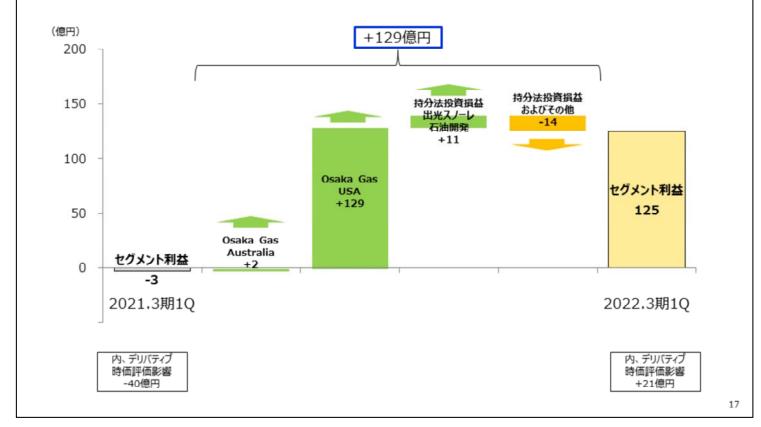
✓ 国内エネルギーのセグメント利益は、タイムラグ影響による減益や一時的要因による増益などにより、概ね前年並みの 239億円



22.3期第1四半期セグメント別実績 - 海外エネルギー



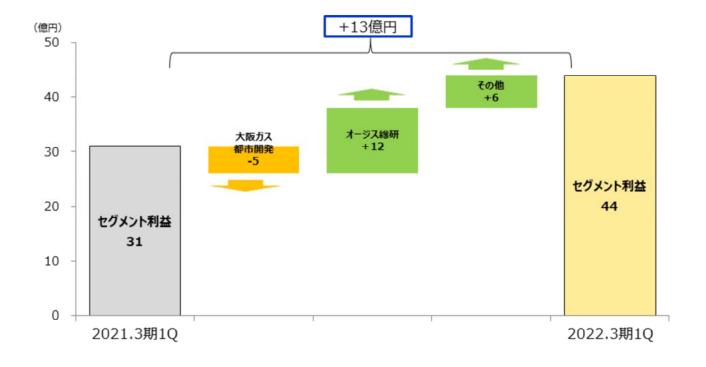
✓ 海外エネルギーのセグメント利益は、フリーポートLNGプロジェクト、サビン・シェールガスプロジェクトの利益貢献等により、 前年から129億円増益の125億円







ライフ&ビジネス ソリューションのセグメント利益は、情報ソリューション事業、フィットネス事業等でのコロナ影響の緩和により13億円増益の44億円





Ⅲ. 22.3期見通し





22.3期見通しの対前年比較 - ①売上高・利益等

原油価格・為替等の前提を変更し、売上高、タイムラグ差損益の見通しを変更

| 億円 | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | А-В | (A-B)/B | 備考 |
|-------------------------|-----------------|----------------|--------|---------|--------------------------|
| 売上高 | 15,100 | 13,641 | +1,458 | +10.7% | 原油価格上昇に伴う販売単価の上昇等 |
| 営業利益 | 805 | 1,124 | -319 | -28.4% | |
| 経常利益 | 950 | 1,277 | -327 | -25.6% | 国内エネルギー事業におけるタイムラグ影響の減益等 |
| タイムラグ差損益 (ガス・電 カ) *1 | -299 | 16 | -315 | - | |
| タイムラグ差損益控除後 経常利益 | 1,249 | 1,260 | -11 | -0.9% | |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 705 | 808 | -103 | -12.8% | |
| 一株あたり当期純利益(円) | 169.6 | 194.5 | -24.9 | -12.8% | |
| EBITDA*2 | 2,000 | 2,275 | -275 | -12.1% | |
| NOPAT*3 | 835 | 1,115 | -280 | -25.1% | |

| | | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | А-В | 備考 | |
|------|--------|-----------------|----------------|-------|-------------------------|--|
| 原油価格 | \$/bbl | 73.0 | 43.4 | +29.6 | 2Q以降の前提:原油価格 75.0\$/bbl | |
| 為替 | 円/\$ | 109.9 | 106.1 | +3.8 | 2Q以降の前提:為替 110.0円/\$ | |

^{*1} 国内ェネルギーの内数 *2 EBITDA = 営業利益+ 持分法投資損益+ 減価償却費(のれん償却費含む) *3 NOPAT = 経常利益 + 支払利息 - 受取利息 - 法人税等





| 億 | Ħ | A. 22.3期末 見通し | B. 21.3期末 実績 | A-B | 備考 |
|---|-------------|------------------|-----------------|--------|----------|
| 総 | 資産 | 24,444 | 23,133 | +1,310 | 成長投資の進捗等 |
| 自 | 己資本 | 11,166 | 10,818 | +348 | |
| | 一株当たり純資産(円) | 2,685.7 | 2,602.2 | +83.6 | |
| 有 | 利子負債 | 8,828 | 7,853 | +974 | 新規調達等 |
| 投 | 下資本*1 | 19,879 | 18,568 | +1,310 | |

^{*1} 投下資本 = 自己資本 + 有利子負債 (当社にリスクのないリース負債を除く)

| | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | 備考 |
|------|-----------------|----------------|-------|----|
| ROIC | 4.4% | 6.2% | -1.8% | |
| ROE | 6.6% | 7.8% | -1.2% | |

| | | A. 22.3期末 見通し | B. 21.3期末 実績 | A-B | 備考 |
|---|---------------|------------------|-----------------|-------|----|
| 自 | 己資本比率 | 45.7% | 46.8% | -1.1% | |
| | ハイブリッド社債考慮後*1 | 49.3% | 50.5% | -1.3% | |
| D | /E比率 | 0.79 | 0.73 | +0.06 | |
| | ハイブリッド社債考慮後*1 | 0.66 | 0.60 | +0.06 | |

^{*1} 発行済ハイブリッド社債の資本性50%を調整



22.3期見通しの対前年比較 - ③キャッシュ・フロー等

/ 当初見通しより変更なし

| 億円 | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | 備考 |
|--------------------|-----------------|----------------|--------|----|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 1,651 | 2,197 | -546 | |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー*1 | -2,590 | -1,983 | -606 | |
| フリーキャッシュフロー*2 | -938 | 214 | -1,152 | |

^{*1} 見通しは投資額を記載 *2 フリーキャッシュフロー = 営業活動によるキャッシュ・フロー - 投資活動によるキャッシュ・フロー

| 億円 | | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | 備考 |
|-----|---------------------|-----------------|----------------|------|----|
| 品質的 | 7上投資 | 690 | 688 | +1 | |
| 成長挑 | 資 | 1,900 | 1,525 | +374 | |
| | 国内エネルギー | 700 | 807 | -107 | |
| | 海外エネルギー | 640 | 326 | +313 | |
| | ライフ&ビジネスソリューショ ン | 560 | 390 | +169 | |
| 設備的 | 資 | 1,960 | 1,894 | +65 | |
| 減価償 | 賞却費 | 1,055 | 1,014 | +40 | |



22.3期見通しの対前年比較 - ④お客さまアカウント数等

当初見通しより変更なし

| | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | (A-B)/B | 備老 |
|-------------------|-----------------|----------------|--------|---------|-----------|
| お客さまアカウント数(千件) | 9,680 | 9,401 | +279 | +3.0% | |
| 連結ガス販売量(百万m³) | 6,987 | 7,157 | -169 | -2.4% | |
| (個別)ガス販売量 | 6,956 | 7,121 | -165 | -2.3% | |
| 家庭用 | 1,695 | 1,862 | -167 | -9.0% | 気水温影響の反動等 |
| 業務用等 | 5,261 | 5,259 | +2 | +0.0% | |
| 国内電力販売量(百万kWh) *1 | 18,024 | 16,133 | +1,891 | +11.7% | |

^{*1 22}年3月期より電力販売量は、電力販売に係る収益を「収益認識に関する会計基準の適用指針」に基づき見積り計上することから、決算月に実施した検針の日から決算日までに生じた使用量の見積りを反映させたものを記載。前年の電力販売量は、毎月の検針による使用量の計量に基づいたものを記載。

| | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | 備考 |
|---------|-----------------|----------------|------|----|
| 平均気温(℃) | 17.2 | 17.6 | -0.4 | |



22.3期見通しの対前年比較 - ⑤セグメント別

国内エネルギー、海外エネルギーの売上高、セグメント利益見通しを変更

| 億円 | | A. 22.3期 見通し | B. 21.3期 実績 | A-B | (A-B)/B | 備考 |
|-----|---------------------|-----------------|----------------|--------|---------|--|
| 売上 | 高*1 | 15,100 | 13,641 | +1,458 | +10.7% | |
| | 国内エネルギー | 12,650 | 11,583 | +1,066 | +9.2% | 原油価格上昇に伴う販売単価の上昇等 |
| | 海外エネルギー | 700 | 442 | +257 | +58.0% | 北米事業の増収等 |
| | ライフ&ビジネスソリュー ション | 2,300 | 2,165 | +134 | +6.2% | 材料事業の増収等 |
| | 調整 | -550 | -551 | +1 | | |
| セグン | くント利益*1*2 | 945 | 1,261 | -316 | -25.1% | |
| | 国内エネルギー | 365 | 855 | -490 | -57.4% | タイムラグ影響等 |
| | 内、電力*3 | 130 | 148 | -18 | -12.4% | |
| | 海外エネルギー | 400 | 168 | +231 | +136.9% | フリーボートLNGプロジェクトの増益、原油価格上昇による豪州上流事業の増益等 |
| | ライフ&ビジネスソリュー ション | 190 | 192 | -2 | -1.3% | |
| | 調整 | -10 | 43 | -53 | - | |
| タイト | ふラグ差損益* ⁴ | -299 | 16 | -315 | | |
| | (個別)ガス事業 | -238 | -16 | -221 | 17. | |
| | 電力事業 | -61 | 33 | -94 | - | -\ -\ -\ 1 (60)774-15-1-4-1-2 4-1-2 |

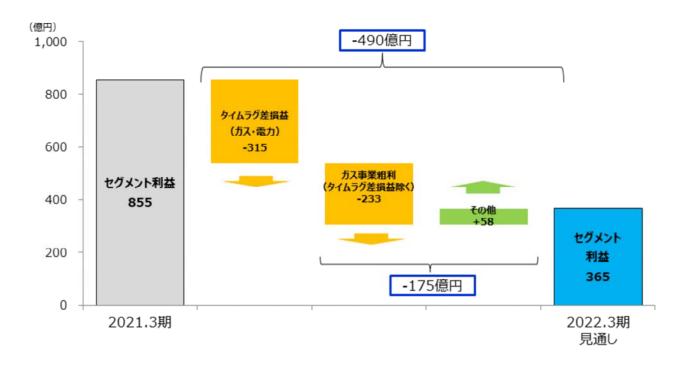
^{*1 22.3}期より、国内エネルギー・ガスと国内エネルギー・電力を国内エネルギーへ統合し、大阪ガスインターナショナルトランスボート㈱等を海外エネルギーから 国内エネルギーに移管。併せて、大阪ガス㈱(国内エネルギー・ガス)に含まれる海外エネルギーのための営業費用を海外エネルギーに移管。 21.3期実績は新セグメントベースでの試算値 *2 セグメント利益=営業長益 #サラン法投資長益

^{*3「}電力」は、大阪ガス個別附帯電力利益と一部の関係会社の利益を単純合算したものであり従来の「国内エネルギー・電力」とは異なる。 *4 国内エネルギーの内数

22.3期セグメント別見通し - 国内エネルギー



国内エネルギーのセグメント利益は、タイムラグ影響や、前年度冬場の低気温影響の反動などにより前年から490億円減益の365億円

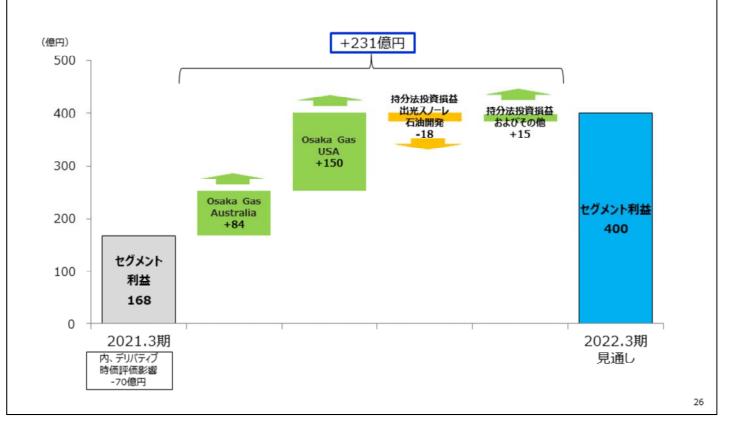


25

22.3期セグメント別見通し - 海外エネルギー



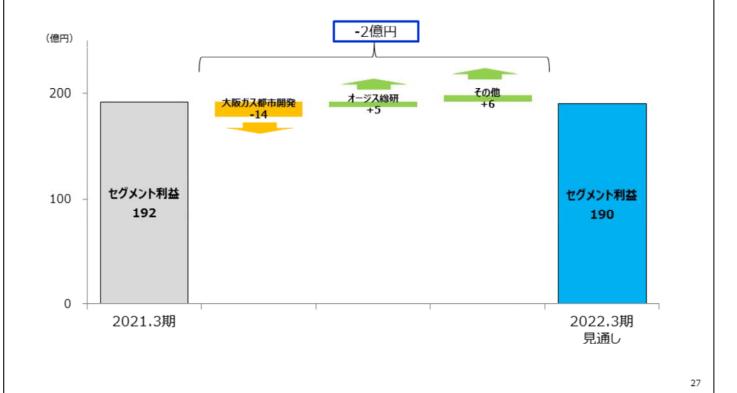
✓ 海外エネルギーのセグメント利益は、フリーポートLNGプロジェクトの増益、原油価格上昇による豪州上流事業の増益等により、前年から231億円増益の400億円







ライフ&ビジネス ソリューションのセグメント利益は概ね前年並み



年度見通しに対するリスク要因



■ 気温·水温

気・水温1度の変化に対し、家庭用ガス販売量は、春秋期約7%・夏期約8%・冬期約6%変動する可能性がある。

■ 原油価格

LNG価格が原油価格にリンクすることなどから、原油価格+1\$/bblの変化に対し、22.3期の連結経常利益は約-8億円変動する可能性がある。

■ 為替レート

■ LNG価格が米\$・円の為替レートにリンクすることなどから、為替レート+1円/\$の変化に対し、22.3期の連結経常利益は約-7億円変動する可能性がある。

■ 原料費

■ 原料費調整制度によって、中長期的には原料費の変動はガス料金に転嫁されるが、反映までのタイムラグや原料調達先の構成によって、業績に影響を与える可能性がある。

■ 金利

■ 金利+1%の変動に対し、22.3期の連結営業外費用が年間+16億円変動する可能性がある。

(参考) 22.3期第1四半期の主なトピックス



| 4 月 | ■ タイ国におけるSpiber社向けオンサイト・ユーティリティ供給事業の開始について 「グリーンアンモニア分野の米国スタートアップ Starfire社への出資について 国崎県日向市における地域との共生を目指すバイオマス発電所の事業化決定について〜当社子会社グリーンパワーフュエルが供給する国産木質チップを活用〜 導管部門の分社化に向けた吸収分割契約の締結について SPACECOOL社による新商材「放射冷却素材」の事業開始について〜世界最高レベルの冷却性能で脱炭素社会実現にも貢献〜 |
|--------|--|
| 5 月 | ■ 「第41回無担保社債200億円」「第42回無担保社債100億円」「第43回無担保社債100億円」(国内普通社債)を発行します ■ 「工事現場をAIで自動認識する車載カメラ」によるガス管パトロール業務の試験運用開始について〜ガス管が埋設されている道路における 他事業者工事の状況把握〜 |
| 6 月 | ■ 「一般社団法人再生可能エネルギー地域活性協会」設立のお知らせ〜地域と再生可能エネルギーが共生し相互に発展していくことを目指して〜 ※国ベンチャーファンド WiL Ventures III, L.P. への出資について 長崎県五島市沖 海洋再生可能エネルギー発電設備整備促進区域公募占用指針に基づく国内初の選定事業者に決定-浮体式洋上風力発電所の実現に向けて 大阪ガスとGPSSホールディングスによる中小型太陽光発電所の共同開発に関する合意書の締結について〜日本全国の遊休地を活用した新設FIT・非FIT太陽光発電所の開発〜 Etrion社が所有するメガソーラー発電所の取得について 株式会社島津製作所との新電気料金メニュー「D-Green」シリーズ契約締結について 米国メーン州における分散型太陽光発電事業への参画について 堺市・大阪ガス・NTT西日本3者共同での埋設物調査申請・施工協議等のWEB受付トライアル実施について |

※プレスリリース実施月で記載 ■国内エネルギー案件、■海外エネルギー案件、■ライフ&ビジネスソリューション案件、■その他